

2013.7.12-14

International Association of Dynamic Psychotherapy

国際力動的的心理療法研究会

第 19 回 年次大会

大会テーマ

大震災の衝撃一心に潜む力

Impacts of Great East Japan Earthquake and Tsunami: Hidden Power of our Minds

日時
2013年7月12日(金) - 14日(日)

会場
郡山市民交流プラザ (ビッグアイ7階)
〒963-8002 福島県郡山市駅前 2-11-1

大会会長
橋本和典 Ph.D., CGP

大会副会長
セス・アロンソン Psy.D., CGP, FAGPA

福島県：猪苗代湖

主催：国際力動的的心理療法研究会
共催：ライオンズクラブ心の復興プロジェクト
震災復興心理・教育臨床センター
福島心の復興支援協議会

後援：福島県
福島県教育委員会
郡山市
国際集団精神療法集団過程学会 (IAGP)
(公財) 郡山コンベンションビューロー

 International Association of Dynamic Psychotherapy
<http://www.iadp.info/>

第19回年次大会 大会会長挨拶



東日本大震災から2年が経ちました。その衝撃はいまなお大きく、個性をもって見える形、見えないうちでなお続いています。特に、福島は、原発の問題を抱え、物理的安全の確保すら不安定な環境の中で、不安、緊張の中に晒され、生きている現状があります。震災以降の2次、3次、4次と累積される心の傷(トラウマ)は、見えない不安とも重なり、ストレスを増大させ、心身の力を奪い、多くの悪影響を引き起こします。慢性疲労、睡眠の乱れ、ストレスによる体調不良にはじまり、うつ、うつ病の蔓延、成人病の増加、子どもたちの不登校、自殺ならありえない不注意の事故、虐待や暴力、そして痛ましい自殺の問題まで、その悪影響は現実化はじめています。

国際力動的心理療法研究会(IADP)は、これまでの2年間、宮城県仙台市に設立したライオンズクラブ心の復興プロジェクト震災復興心理・教育臨床センター(通称EJセンター)と共同で、精神分析、力動的心理療法の立場から、震災支援に当たってきました。個人や社会によって隠され見えにくくなる心の傷、PTSDの予防と治療活動です。力動的な心理療法、そしてそれを応用した心理療法的介入の目的は、心の苦しみをマイナスから0にすることを超えて、震災以前よりも、心を元気に逞しくすることにあります。しかし、その必要性を訴え、求める声は、十分には届いていません。「震災のことは忘れない」と自分の痛みを見ないようにする個人の回避が、社会の回避と重なり、震災PTSDは遷延しています。そこで、前回の仙台大会に続き、IADPは、今なお危機感の高い福島で、傷、ストレスに向き合い、語り、過重ストレスによって沈む心の底力を解放する取り組みを、福島の中心都市のひとつ、郡山市で行うことを決定しました。

米国9.11テロ後の青年のPTSD治療対策リーダーであったセス・アロンソン(Seth Aronson)先生、戦争PTSDや子どもの外傷治療の権威であるラルフ・モーラ(Ralph Mora)先生、日本の精神分析、精神医療を牽引してこられた牛島定信先生

や、吉松和哉先生をはじめ、日本国内外から第一線の専門家が駆けつけ、うつやPTSDに関連した専門家向けの充実した訓練プログラムを組むことができました。また、今これからの福島での地域のリーダーシップを期待される、企業、行政、学校、幼稚園、保育園、病院などのあらゆる組織リーダーを対象とした震災支援心理教育ワークショップ「アゴラ」を開催します。中でも、国際集団精神療法・集団過程学会のトラウマ/災害対策特別研究班に属し、IADPの理事長でもある小谷英文先生は、剣道の演武も披露して下さる仙台青葉ライオンズクラブの名誉顧問の小池總明先生とのジョイントで、「心の復興」に必要な人の底力を体験できるワークショップを行います。そして大会の最後には、市民公開フォーラムで、EJセンターの足立智昭先生を筆頭に、現在の震災支援の成果と問題点を整理し、全員参加で次のアクションを探求します。東北の、福島の歴史を背負い、地域を生きるこれからの子どもたちが、心を元気に、逞しくすることに希望を持てるよう、まず、大人が自分と向き合い、心に潜む元気感覚を取り戻す試みをはじめましょう。福島県出身者として、そして、心理療法の専門家として、この難局に挑み、さらなる力を発揮したい方のご参加を呼び掛けます。「ストレスに強い福島、東北の再生を!」と。

第19回年次大会大会会長
橋本 和典, Ph.D., CGP

大会会長プロフィール

1973年福島県須賀川市生まれ。東京大学大学院教育学研究科修士課程を経て、国際基督教大学大学院博士後期課程修了。博士(教育学)。心理療法家(臨床心理士、全米公認集団精神療法士)。現在、東京目黒区にある心理療法専門機関のPAS心理教育研究所臨床心理部門主任。東京大学駒場学生相談所、立教大学非常勤講師。専門は、精神分析的な心理療法および集団精神療法。震災後からPTSDの予防・治療活動を行い、2013年5月に「福島心の復興協議会」を立ち上げる(事務局長)。主著に、『青年期退行性困難患者における自己破壊性脱却機序』(博士論文)、『アイデンティティ教育』、『人格障害の集団精神療法』、『男性の成熟性—集団同一性から自我同一性へ』など。

大会副会長プロフィール



セス・アロンソン, Psy.D., CGP, FAGPA

9.11における子どもや青年のPTSD対処の指揮をとる。代表的な著書『Group Treatment of Adolescents in Context』(Saul Scheidlinger, Fady Hajalと編著)。ウィリアム・アロンソン・ホワイト研究所(ニューヨーク)フェロー/ファカルティ/トレーニング・スーパーバイジング・アナリスト、マンハッタン精神分析研究所ファカルティ・スーパーバイザー、ノースウェスト精神分析センター(シアトル・ポートランド)ファカルティ、ロングアイランド大学客員教授。

国際力動的な心理療法研究会 理事長挨拶

From your President

まだ間に合う

「天よ、我にスリーハンドレッドを」、2011.3.11以来の私の思いである。

国が動かず、『フクシマフィフティ』は最大限の仕事をした。それでも白虎隊の悲劇を見ないに徹するこの国である。言い過ぎだろうか。フクシマフィフティの仕事はその後、どう引き継がれているのか。

救急時の標語「心のケア」のまま、そこから一歩も前へ出ない心の対策不能も、誰も見ようとはしない。PTSDは顧みられることがないままである。

船橋洋一著「カウントダウン・メルトダウン」は、世界の明日を奪うに十分な放射能禍に対する最悪の日本型リーダーシップを白日の下に晒した。明治維新以来の、責任者不在のリーダーシップは、文字通りに歴史的トラウマである。

放射能禍対応は何も終わっていない。PTSD対応は始まっていない。PTSDが潜行するかどうかの震災後7ヶ月8ヶ月時、宮城駐在新聞記者が、「東北は地の絆が強いので問題はもうないですよ」と、取材することもなく言って退けた。震災後1年、1年6ヶ月、2年を経た今も、我が学会の分隊『PTSDセブン』は、仙台—石巻臨床でPTSD処方追われている。危機意識を持って仙台で学会年次大会を持ち、国際トップエキスパート達を呼び寄せ、PTSD予防から治療へ繋ぐ大ワークショップを2度にわたって開いた。国内学者は揃って絆の記者と同じく文化が守るとしか言わない。東北の人々は、とりわけ福島人は、苦しみを人には見せない、と誰もが言う。私もヒロシマ人として、3.11までそうであった。この自分に被爆二世禍が残っているようとは夢にも思っていなかった。60年を経ての沖縄の人々の痛み、ずしんと来た。見ざる聞かざる言わざるで、PTSD禍は決して通り過ぎていきはしない。

フクシマフィフティの気概は、PTSD禍をも払拭する底力を伝えた。その気概を持って、大人だけでなく子供たちの隅々まで、60年後にまで痛みを据え置かないで、見よう、聴こう、語ろう、触れよう、痛みを力に変えるまで。

ノーモアヒロシマ、オキナワ、そしてノーモア白虎隊の危機は、今ある。

PTSD対策がここまで何も成されていないことは、世界の目からは信じ難い。私はこれを決して『文化』の故とは言わせない。人災である。

人災であるなら闘いようがある。PTSDとの闘いは盛り返すことが出来る。何も始まってはいないこの闘いを始めればよいのである。学問も科学もここまで政治と経済のパワーの前に無力のままである。今必要なのは科学実行者である、思想実行者である。そしてあらゆる分野の真のリーダーである。押し出そう真のリーダーをフクシマから、世界に希望の火を灯すために。

『天よ、我に臨床スパルタンズスリーハンドレッドを与え賜うや』

国際力動的な心理療法研究会理事長
小谷 英文, Ph.D., CGP



理事長プロフィール

1948年広島県広島市生まれ。博士(心理学)。専門は、精神分析的な心理療法、困難患者心理力動/技法。広島大学助手、アデルファイ大学高等臨床心理学研究所客員研究員、広島大学助教授、国際基督教大学教授、同高等臨床心理学研究所創立所長を経て、現在PAS心理教育研究所理事長。国際集団精神療法集団過程学会元理事。現 同学会国際トラウマ/災害対策特別研究班員。集団分析的な心理療法国際協会創立教授。ライオンズクラブ心の復興プロジェクト：震災復興心理・教育臨床センター臨床オーガナイザー、福島心の復興支援協議会オーガナイザー。主著に、『Creating Safe Space through Individual and Group Psychotherapy』、『現代心理療法入門』、『ダイナミックコーチング』、『カウンセリングとガイダンス』、『集団精神療法の進歩(近刊)』他。

第19回年次大会 大会組織

大会会長 --- 橋本 和典
(国際力動的な心理療法研究会(IADP)事務局長)

大会副会長-セス・アロンソン
(ウィリアム・アロンソン・ホワイト研究所)

科学プログラム委員会

委員長 ----- 中村 有希 (PAS心理教育研究所)
委員 ----- 川村 良枝 (聖学院大学)
西川 昌弘 (PAS心理教育研究所)
能 幸夫 (湘南病院相談室/PAS心理教育研究所)

大会事務局: PAS心理教育研究所

大会事務局長 -- 石川 与志也
広報 ----- 花井 俊紀
高田 毅
荻本 尚子
吉田 愛
通訳・翻訳 ----- 髭 香代子
橋本 麻耶
荻本 尚子
荻本 快
田中 令子

第 19 回年次大会 大会プログラム一覧

2013年7月12日(金)：大会1日目 IADP 会員・専門家向けプログラム	2013年7月13日(土)：大会2日目 市民・専門家合同プログラム	2013年7月14日(日)：大会3日目 午前：IADP 会員・専門家向けプログラム 午後：市民・専門家合同プログラム
<p>13:00-13:15：開会式</p> <p>13:30-15:30：大会基調ワークショップ 「PTSD への心理力動的アプローチの最前線」 講師：ラルフ・モーラ (アメリカ海兵隊岩国航空基地 岩国診療所(BHC) 心理士)</p> <p>16:00-17:30：スーパーヴィジョン・セッション スーパーヴァイザー： ・セス・アロンソン (ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所 ファカルティ) ・ラルフ・モーラ (アメリカ海兵隊岩国航空基地 岩国診療所(BHC) 心理士) ・吉松 和哉 (式場病院 特別診療顧問) ・西川 昌弘 (PAS 心理教育研究所 副所長) ・橋本 和典 (第 19 回 IADP 年次大会 大会会長)</p> <p>18:30-20:30：全体ケースセミナー 講師：小谷 英文 (IADP 理事長・設立者/IAGP Trauma / Disaster Task force 日本代表) スーパーヴァイザー：小谷 英文・参加者全員</p>	<p>10:30-12:30：オープニング講演 「底力の可能性 Power from the ground state」 人の底力は目に見える。剣豪の力を借りて互いの底力を見てみよう。 講師：小谷 英文 (IAGP Trauma / Disaster Task force 日本代表) 剣道演武：小池 總明 (剣道教士・仙台泉区剣道連盟副会長) 小野寺 恵子 (剣道教士)</p> <p>12:30-13:30：ランチタイム・個別相談 個別相談ブースにてご希望される方の相談をお受けします。</p> <p>13:30-16:30：IADP 会員・専門家向けワークショップ 心理療法の知識・態度・技術を磨く訓練ワークショップ (ワークショップ概要は 6 ページをご確認ください。)</p> <p>16:45-17:30：大グループ 参加者全員参加のグループで一日の体験を言葉にし、味わいます。</p> <p>18:30-21:00：懇親会 会場：割烹 赤津 (福島県郡山市虎丸町 21-6)</p>	<p>10:30-12:00：教育講演 「うつ的確な診断と治療的対応」 講師：牛島 定信 (三田精神療法研究所 所長)</p> <p>12:30-14:00：ランチタイム・理事会／総会</p> <p>14:00-16:30：市民公開シンポジウム 「震災 PTSD と心に潜むカー今とこれから」 司会：セス・アロンソン (ウィリアム・アランソン・ホワイト研究所) 橋本 麻耶 (PAS 心理教育研究所) 発題：宮城より 足立 智昭 (宮城学院女子大学 教授) 福島より 橋本 和典 (第 19 回 IADP 年次大会 大会会長) ディスカッサント：牛島 定信 (三田精神療法研究所) 吉松 和哉 (式場病院) ラルフ・モーラ (アメリカ海兵隊岩国航空基地 岩国診療所(BHC))</p> <p>16:30-17:00：振り返りと閉会式</p>
		<p>※ …専門家以外の市民の皆様が参加いただけるプログラムです。 (市民参加は無料)</p>

ファカルティ紹介



ラルフ・モーラ, Ph.D., MSS, CAIA
米海兵隊の PTSD 治療のエキスパート。アメリカ海兵隊岩国航空基地岩国診療所(BHC) 心理士・メリランド大学客員教授。



牛島 定信, M.D.
九州大学医学部卒業。国立肥前療養所医長、福岡大学医学部教授、東京慈恵会医科大学教授を経て、三田精神療法研究所所長。日本精神分析学会元会長、日本森田療法学会元理事長、日本サイコセラピー学会前理事長、日本児童青年精神医学会元理事長他。



吉松 和哉, M.D.
東京大学医学部医学科卒業。医学博士。信州大学医学部精神医学教室教授、大正大学大学院臨床心理学専攻教授を経て、現在、式場病院特別診療顧問。日本集団精神療法学会元理事長。日本精神病理学会元理事、日本社会精神医学会元理事、日本精神分析学会元運営委員。



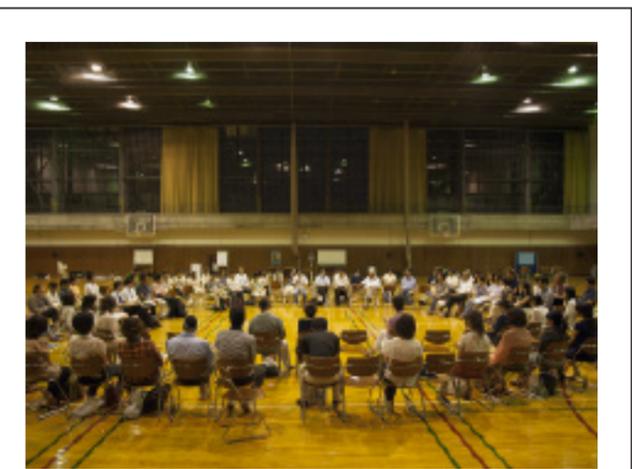
西川 昌弘, M.A.
慶應義塾大学大学院修了。国際基督教大学大学院准教授を経て、現在 PAS 心理教育研究所ファカルティ/副所長。神奈川大学大学院講師、震災復興心理・教育臨床センター委員、日本集団精神療法学会・東日本大震災関係者相互支援グループ委員会委員、国際力動的心理学療法研究会理事他。



能 幸夫
国際基督教大学教養学部卒業。湘南病院相談室室長。PAS 心理教育研究所研究部ディレクターを経て、PAS 心理教育研究所所長。国際力動的心理学療法研究会(IADP) 理事。日本集団精神療法学会理事。



足立 智昭, Ph.D.
東北大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。のち教育学博士。宮城学院女子大学学芸学部教授。臨床発達心理士。ライオンズクラブ心の復興プロジェクト震災復興心理・教育臨床センター代表。宮城県次世代育成支援対策地域協議会会長。



第 18 回年次大会アゴラの大グループ (2012.9.2. 宮城学院女子大学)

IADP 会員・専門家向けワークショップ紹介

心的外傷を受けた思春期青年に対する心理療法の挑戦

トレーナー：セス・アロンソン
(ウィリアム・アロンソン・ホワイト研究所ファカルティ)

思春期・青年期は多くの発達課題の克服で溢れている時期である。青年は、分離、新しい愛着、アイデンティティの問題、変化する身体とのつきあいや性、そして発達する認知などについて取り組まなくてはならないのである。これらの課題の全ては、青年が外傷的な体験をすることにより影響を受ける。外傷後の思春期の青年と関わる精神衛生の専門家は、著しい逆転移に直面する、特にセラピスト自身もその外傷的な出来事を経験しているときはなおさらである。当ワークショップでは、心的外傷に曝されたこの年齢の群に対して、セラピー体験が強力に治癒的な影響をもつためにいかに治療的に作業できるかということを取り扱う。

心的外傷を受けた子どもへの心理療法

トレーナー：ラルフ・モーラ
(アメリカ海兵隊岩国航空基地 岩国診療所(BHC) 心理士)

多くの子ども達が今でも 2011 年の東日本における津波災害による彼らの生活と地域への衝撃に苦しんでいる。これまでの研究により、治療的介入はこれらの子ども達の生活を向上させる意味を持つとされているが、この外傷が今なお続いているという違いがある(この点において、これまでの研究とは異なっている)。当ワークショップでは、心の弾力性を増強するという観点から、外傷を受けた子どもの問題について取り組む心理力動的アプローチに焦点化する。心の弾力性を強化することにより、子ども達は心的外傷に対処することを学ぶだけでなく、再外傷化されているという現実に取り組む続けることができるのである。子ども達は毎日、彼らの人生、そして家族と地域に起きた外傷による未解決の影響の中を生きなくてはならない。

軍人に使用されているパラダイムとの対比、比較もワークショップにおいて行う。彼らもまた初発の外傷への対処と戦場で繰り返される再外傷化への準備の両方を必要とするのである。初めに、力動的心理学の効果についてのメタ分析的研究のレビューをすることでアプローチの論理的根拠が得られるとともに、治療の目標を規定するのに寄与するだろう。そして、合理的な治療目標を設定する上でもっとも重要とされる自我の強さのアセスメントをする初期対応の歴史の文脈で、外傷について議論する。個人、グループ、家族、そして地域へのアプローチを組み合わせた、複数のアプローチの絡み合いを強調する。それにより、それそのものが自己維持的であり、継続的な強さと弾力性の資源を子ども達や家族に提供できる、全体的な治療アプローチを提供することができるのである。メンタルヘルスは子どもに限定されるものでなく、地域全体に与えられると最も効力を発揮するとの提案である。

最後に、このワークショップでは地域に何か方向づけを与え

られるような白書を提供できるよう試みる。この目標を達成するために、参加者には最後のブレインストーミングセッションの1時間において、それぞれのアイデアや経験を提供してもらいたい。最終ドラフトは筆者により構成され、全体としてこの学会に発案する。

応答構成入門

トレーナー：能 幸夫
(湘南病院相談室 室長 / PAS 心理教育研究所 所長)

応答構成とは、心理療法・カウンセリングにおけるクライエントの発言に対するセラピスト・カウンセラーの応答を、時間を止めて、そのプロセスを吟味していく訓練です。心理療法・カウンセリングの訓練はつねに応答構成に始まり応答構成に終わるといえます。私たちがふだん無意識のうちに応答しているそこにも、この応答プロセスはあります。精神分析的システムズ理論のエッセンスが詰まった応答構成訓練にともに入ってみましょう。

うつの力動的心理学

トレーナー：牛島 定信 (三田精神療法研究所 所長)

うつ病が現代社会を席卷している。これは現代の文化的状況が作り出している「生き辛さ」と密接に関連したものだ。しかしながら、精神医学は、これらのうつ病を脳内の病的過程に由来するとし、薬物療法を、さらには磁気刺激まで準備した。そこには、人間的な悩み、哀しみが機能する場所がないかの如くである。臨床家として、それではいけないと思う。もう一度、人間存在のあり様からうつ病を考えることにしたいと思う。

精神科病院における臨床経験から

一集団精神療法場面における沈黙と攻撃性の扱いについて一

トレーナー：吉松 和哉 (式場病院 特別診療顧問)

集団精神療法場面では、誰からも発言の出ない沈黙の続くことがある。この沈黙を如何に扱うかは難しい課題であるが、大切でもある。またこの沈黙が治療への抵抗を示している場合もある。更にははっきりと攻撃的な発言をするメンバーが出ることもある。しかし、これらの現象は集団精神療法にとって治療的介入の好機でもあり、これらを実際の体験を通して学べたと願っている。

アゴラ：危機における人と集団の底力

震災のこと、その後 2 年の苦労の中での腹の底にある怒り、痛み、喜び、思い、心配ごと、ストレスは自由に語れますか? 連れ合いとは? 同僚とは? 子どもたちとは? これが率直に語れない、震災 PTSD のサインです。子どもたちの将来のためにも、まずは、大人が、青年が、自分のストレスに向き合い、ストレスも、底力も解放し、この難局を突き抜ける逞しい心の力を鍛え、PTSD に打撃一歩をはじめてみましょう。

アゴラとは

現代社会に生きる市民が集まり、大事な心のことを語り合い、エネルギーと情報を行き交いさせる、現代版の広場(アゴラ)を作る試みです。市場の出店のように開かれるワークショップに参加し、心を動かし、震災・被災にまつわる想いに安全に触れ、心の底力を体験し、取り戻すプログラムです。2012 年 3 月と 9 月に仙台市で開催し、東日本大震災を体験した多くの方が参加し、「震災後初めて泣けた」「初めて語れた」という声もあがりました。

スケジュール

- 10:30-12:30 --- オープニング講演
- 12:30-13:30 --- ランチタイム・個別相談
- 13:30-16:30 --- ワークショップ
- 16:45-17:30 --- 大グループ

アゴラ：市民向けワークショップ紹介

危機を越えるリーダーシップ

講師：橋本和典・中村有希・伊藤裕子・荻本快
対象：組織の長(企業やあらゆる組織の要職に就かれている方)
定員：7名
狙い：震災ストレス下の組織運営リーダーシップ能力のアップ。
何をやるのか：底力の解放、集団・個人の力学の読み方と介入訓練。

ジョーク・ワークショップ

講師：石川 与志也
対象：青年(高校生・大学生・専門学校生など)
定員：8名
狙い：ジョークが我々の心を逞しく自由にするのを体験的に学ぶ。
何をやるのか：ジョークを聞いてみる、言ってみる、作ってみる。

教育的対話

講師：西川 昌弘
対象：保育士・幼稚園教諭・教師・カウンセラー・一般の成人
定員：12名内外
狙い：相手と自分の心が生き動く教育的対話法を学びます。
何をやるのか：覚醒した五感で自分と場所、相手に関心を払い、心が動くことを確認します。



アゴラ・ワークショップ(2012.9.2)

親子の Story Making Group (SMG)

講師：橋本 麻耶・花井 俊紀・足立 智昭・西浦 和樹
対象：親子で参加ください
定員：親子 4 組
狙い：震災で止まった時、場を取り戻し、心をしなやかにする。
何をやるのか：お話を通して、自分、子、親、他人の心にふれる。

積み木遊び

講師：川村 良枝
対象：こどもの遊びに関心を持つすべての方
定員：7名
狙い：こどもが遊びを用いて体験し訴えていることを理解する。
何をやるのか：積み木を使った遊戯療法を体験する。

サポートグループ

講師：髭 香代子・本田 美奈
対象：お父さん・お母さん・学生さん
定員：7名
狙い：震災の心への影響のチェックと心の復興の可能性を探る。
何をやるのか：震災に関わる思い、傷、怒り、悲しみを語るグループ。

絵本の読み聞かせ実践演習

講師：高田 毅・田中 令子
対象：幼稚園教員・保育士など
定員：10名
狙い：読み聞かせで豊かな時間・空間を作る技術を向上させ、味わいましょう。
何をやるのか：絵本の読み聞かせワンプイントレッションと、その準備のための発声練習。

アクセス

大会会場

郡山市民交流プラザ (ビッグアイ 7 階)
〒 963-8002 福島県郡山市駅前 2-11-1
(JR 東北新幹線 郡山駅西口徒歩 1 分)

主なアクセス

東京から：東北新幹線で約 1 時間 20 分
東北道で約 3 時間

仙台から：東北新幹線で約 40 分
東北道で約 1 時間 30 分

山形から：東北・山形新幹線で約 1 時間 20 分
山形道・東北道で約 1 時間 50 分

新潟から：高速バスで約 2 時間 40 分
磐越道・東北道で約 2 時間

大阪から：東海道新幹線・東北新幹線で約 4 時間 30 分
飛行機で約 1 時間 15 分・連絡バスで約 45 分

青森から：東北新幹線を乗り継いで約 3 時間

札幌から：飛行機で約 1 時間 20 分・連絡バスで約 45 分



大会事務局からのお知らせ

大会参加手続き

5 月 1 日 (水) から受付を開始いたします。国際力動的心理療法研究会 (IADP) ホームページより申込書をダウンロードし、郵送または FAX で大会事務局 (下記参照) までお申込みください。

IADP ホームページ：<http://www.iadp.info/>

参加申込み締切り：6 月 30 日 (日)

参加費

非会員： 21,000 円
会員・学生： 18,000 円

※福島在住の PTSD 予防・治療に携わる専門家：無料ご招待
※市民公開プログラムへの市民参加：無料

懇親会費： 6,000 円

※IADP 会員の方は年会費 (1,000 円) をお支払いください。

早期割引について

5 月 31 日 (金) までにお申込みいただくと、参加費が 3,000 円割引となります。

スーパービジョン・セッション 事例発表募集

1 日目のスーパービジョン・セッションの事例を募集いたします。ご希望の方は、申込用紙の発表希望欄にチェックし、5 月 23 日 (木) までに大会事務局まで郵送または FAX でお申込み下さい。後日、詳細について事務局よりご連絡いたします。

宿泊に関して

事務局では、郡山ワシントンホテル (<http://washington-hotels.jp/koriyama/>) を 50 部屋確保しています。学会会場から徒歩 5 分と便利な立地となっていますので、ぜひご活用下さい (1 泊 6000 円)。部屋数が限られていますのでお早めにお申し込み下さい。

ご希望の方は申込用紙のホテル希望欄にチェックをつけて下さい。

大会事務局

国際力動的心理療法研究会 第 19 回年次大会事務局長：
石川 与志也 (東京大学駒場学生相談所非常勤講師)

大会事務局： 〒 153-0041 東京都目黒区駒場 2-8-9 PAS 心理教育研究所内

TEL & FAX： 03-6407-8201

学会ホームページ：<http://www.iadp.info/>

メールアドレス：iadp@iadp.info